

城南宮

京都市の生物多様性 と 社寺と 第三号

南禅寺



京都の社寺と生物多様性

第三号
城南宮 南禅寺

発行に当たって

京都市では、京都の豊かな自然環境やそれによって支えられてきた伝統文化を未来へと伝えていくため、「京都市生物多様性プラン」に基づく取組を推進しています。

京都の市街地にある神社や寺院の緑は、京都ならではの自然環境を形作る重要な要素となっています。「京都の社寺と生物多様性」は、そうした社寺林や庭園の多様な生きものを紹介することで、市民や観光客の皆様が、社寺林や庭園を訪問する際に、生物多様性にも着目していただく契機となることを目的とした冊子です。平成27年度に第1号を発行し、平成28年度に発行した第2号からは、生きものマップを「春」「夏」「秋・冬」に分け、季節ごとに見られる生きものを紹介しています。第3号となる本冊子では、城南宮と南禅寺を取り上げ、源氏物語ゆかりの花に彩られる庭園や、社寺林がつなぐ自然環境、苔庭の魅力についても掲載しています。

社寺林や庭園により保全されてきた生きもののつながりを感じ、京都の自然環境や生物多様性について考えるきっかけとなることを願っています。

これまでの掲載社寺

- 第1号 涉成園／上賀茂神社
- 第2号 大覚寺／平安神宮

生きものマップについて

それぞれの季節に、城南宮／南禅寺の境内で見られる生きものとその特徴を紹介しています。また、それぞれの生きものの見つけやすさも表示しています。

見つける難易度 ★: 見つけやすい ★★: 少し見つけにくい ★★★: 見つけにくい

「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」

生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」は、京都の歴史や伝統文化を育んできた生物多様性について皆様に理解を深めていただくために開設しました。

生物多様性について楽しく学び、生物多様性保全に取り組むための様々なコンテンツを用意しています。

<http://ikimono-museum.com/>

目次

- 01 城南宮
- 02 03 城南宮 生きものマップ(春)
- 04 05 城南宮 生きものマップ(夏)
- 06 07 城南宮 生きものマップ(秋／冬)
- 08 城南宮神苑 源氏物語 花の庭
- 09 南禅寺
- 10 11 南禅寺 生きものマップ(春)
- 12 13 南禅寺 生きものマップ(夏)
- 14 15 南禅寺 生きものマップ(秋／冬)
- 16 17 南禅寺 生きものを支えるボーダレスな自然環境
世界に誇る日本の美「苔庭」



京都市では、生物多様性保全の取組を進めています！

詳しくは、京都市生物多様性プランへ生きもの・文化豊かな京都を未来へ～
をご覧ください。
→わたしたちの生活は、生物多様性の恵みに支えられていることを御存知ですか？
→生物多様性の恵みである京都市の資源を活用した生活や経済活動を行いましょう！



城南宮

城南宮は、794(延暦13)年の平安京遷都に際し、都の安泰と国の守護を願い、国常立尊を八千矛神と息長帶日売尊に合わせ祀り、城南大神と崇めたことが創建と伝えられ、城南宮の名称は、平安城の南に鎮まるお宮といふ意味です。

平安時代後期には、白河上皇や鳥羽上皇によつて城南宮を取り囲むように城南離宮(鳥羽離宮)が造営されて院政の拠点となり、政治・文化の中心として、歌会や雅やかな宴や船遊びも行われ、王朝文化が花開きました。また、城南離宮の御殿は、熊野詣の精進所や方除の宿所にも充てられ、平安時代から、方除の神として信仰されていました。今日でも、「方除の大社」と仰がれ、引越し・工事・旅行の安全、厄除を願う全国の人々から、日々の暮らしの守り神と、篤く尊崇されています。



本殿



神楽殿



曲水の宴



曲水の宴図屏風

城南宮神苑「樂水苑」

城南宮の神苑「樂水苑」は、中根金作により造られました。中根金作は、金閣寺・天龍寺など京都の古庭園の調査・保護・修理に始まり、国内外に300もの庭園を造り、昭和の小堀遠州とたたえられた造園家です。樂水苑の「室町の庭」と「桃山の庭」が、氏が造園家として最初に手掛けた庭園で、その後「平安の庭」、「春の山」(さるに)に晩年の「城南離宮の庭」と、生涯をかけて城南宮の神苑の作庭に携わりました。

曲水の宴は、奈良時代から平安時代にかけて宮中で催された歌会を再現した行事です。京都を代表する年中行事の一つに数えられ、毎年、4月29日(昭和の日)及び11月3日(文化の日)に、平安の庭で行われます。

平安の庭を流れる遣水の辺(よどべ)で、平安時代の装束を身に付けた7名の歌人が歌題にちなんだ和歌を詠み、それぞれ短冊にしたためます。そして遣水を流れ来る羽觴を取り上げ、盃を頂きます。その後、童子が短冊を集め、7首の和歌が、平安時代さながらに節を付けて神職により朗詠され、神様に奉納されます。春は新緑の中、秋は紅葉が色付き始める神苑で、王朝の雅な世界が再現されます。

曲水の宴



城南宮神苑 拝観情報

【拝観時間】
午前9時～午後4時30分
(受付は午後4時まで)

【拝観料金】
大人：600円
小中：400円
障害者手帳を提示の方：
300円

※参拝は自由(無料)

春生きものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

用語解説
留鳥
餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥



07 カラタネオガタマ 唐種招靈 常緑樹
見つける難易度 ★★



06 エナガ 柄長 留鳥
見つける難易度 ★



05 アヤメ 文目練目
見つける難易度 ★



04 シジュウカラ 四十雀 留鳥
見つける難易度 ★



03 キタキチョウ 北黄蝶
見つける難易度 ★



01 ヒツバタゴ 一つ葉田子 落葉樹
見つける難易度 ★



5月頃に多くの花を咲かせ、遠くから見ると雪が積もっているように真っ白になります。別名を「ナンジャモンジヤ」といいます。分布域は愛知県などに限られており、自生地では天然記念物に指定され、環境省レッドリスト2017では絶滅危惧種に選定されています。

09 ヤマトシジミ 大和小灰蝶・大和蛺蝶
見つける難易度 ★



08 カワラヒワ 河原鶲 留鳥
見つける難易度 ★



13 ウメ 梅 落葉樹
見つける難易度 ★

地面近くに飛ぶ小型の蝶です。幼虫はカタバミを食草とし、緑色でわらじの形をしています。日本に広く分布しているところから、「大和」と付いたようです。オスの翅の表は水色、メスは灰色です。年に5~6回、春から秋まで連続的に発生し、蛹(なぎ)で越冬します。

12 トキワマンサク 常磐万作 常緑樹
見つける難易度 ★



11 カキツバタ 杜若
見つける難易度 ★



外側の花弁中央部に白い筋模様があり、内側の花弁が細く直立しています。花の汁で着物を染める草木染に利用されたことから「書き付け花」となり、カキツバタに転化したようです。湿地や池・沼などに生育する点がアヤメとの相違点です。古典園芸植物の一つです。



神苑「楽水苑」にあるウメはしだれ梅で、150本余り植栽されています。花は一重と八重があり、白色やピンク色があります。中国原産ですが、万葉集では100首を超える歌が詠まれ、萩(はぎ)に次いで多い数です。日本特有の文化を創った平安時代は桜と梅の時代です。

落葉樹であるマンサクに対し、葉はやや小さめで一年中葉を付けていることから「常磐(ときわ)」という名になりました。個々の花には2cmほどの細長いひも状の花弁が4枚あり、淡い黄色です。葉は主脈を境にして左右の大きさが異なり、細かい毛が生えています。



※見つける難易度 ★: 見つけやすい、★★: 少し見つけにくい、★★★: 見つけにくい

夏生城南ものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

02 セグロセキレイ 背黒鶲 留鳥



背が黒く、下面の白色とのツートンカラーがよく目立つ鳥です。尾を振りながら餌を探し、波形を描いて飛びます。主に昆虫類を食べます。「ジェジェジェ」と濁った声で鳴きますが、オスのさえずりは「ジュリリピチュイチヨチヨ」など軽やかで美しい声です。

03 ムクドリ 棕鳥 留鳥



額と顔は白色、くちばしと脚は黄色で、飛び立つと腰の白い部分がよく目立ちます。木の実をついぱんだり、草地で昆虫類を食べたりします。普段は「キュルル」と鳴きますが、時には「ギヤー」と濁った声で鳴きます。群れで行動し、集団ねぐらを形成します。

※見つける難易度 ★：見つけやすい、★★：少し見つけにくい、★★★：見つけにくい



06 ショウジョウトンボ 程程蜻蛉
見つける難易度 ★



05 コオニユリ 小鬼百合
見つける難易度 ★

オスは成熟すると複眼も体も真っ赤になります。赤い猿(猩々=しようじょ)になぞらえて名が付きました。アキアカネなどのアカネ属の仲間と異なり、腹は扁平です。池の上を活発に飛びながら、岩の上や杭などに止まって、別のオスが近付くと追い払います。

花はオレンジ色で茎の上部に2~10個付き、やや下向きに咲きます。紫黒色の斑点がある花弁は大きくそり返り、雄しべが目立ちます。花は下から順次咲きます。近縁種のよく似たオニユリは葉の脇に珠芽(ムカゴ)を付けますが、コオニユリは付けません。



09 ササユリ 箍百合

見つける難易度 ★★



茎や葉が笛に似ていることや笛年に多いことなどから名が付いた多年草です。秋に熟した種子は風に乗って運ばれ、翌年の春に発芽します。花は桃色で、茎の先端に1~5個付いて横向きに咲き、ほのかな香りがします。山間部ではシカの食害により減少しています。

08 ヤマガラ 山雀 留鳥

見つける難易度 ★



背と胸から腹にかけてオレンジ色の鳥です。「ニーニーニー」と鳴き、オスは「ツーツーピー」とシジュウカラよりゆっくりしたテンポでさえります。昆虫や木の実などをついぱみ、木の実などを地中や樹皮などに隠しておく貯食という習性があります。

13 ナツツバキ 夏椿・娑羅木 落葉樹

見つける難易度 ★



樹皮は滑らかで、薄皮となって剥げ落ち、幹にまだら模様ができます。白い花弁は5枚で、雄しべの黄色がよく目立ちます。朝に開花し、夕方には落花する一日花です。仏教の聖樹の沙羅の木(サラソウジュ)とは別種ですが、混同されていたため、娑羅木(さらのき)とも呼ばれます。

12 オオサカサナエ 大阪早苗

見つける難易度 ★★★



腹部第8節が広がり、そこに鮮明な黄色い斑紋があります。メスの後頭部にハの字型の突起があります。初めて発見されたのが大阪だったのでこの名になりました。環境省レッドリスト2017では絶滅危惧種に選定されています。



04 アオモンイトンボ 青紋系蜻蛉

見つける難易度 ★★



オスの腹部第8節と第9節の側面に青い紋があるのが名の由来です。メスは、未熟な時はオレンジ色で、成熟すると緑色になる型とオスに似た色(青色)になる型があります。池では両方の型のメスが見られます。メスは単独で水中の植物に産卵します。



01 ウツギ 空木 落葉樹

見つける難易度 ★★★



枝先に多くの白い花を咲かせ、花弁は細長く5枚です。茎が中空のため空木(ウツギ)という名です。「卯の花」はウツギの花に例えて名付けられました。材質は硬く腐りにくいため、木ぎや神事のための杵などに使われ、耕作地の境界木としても植えされました。

01 ウツギ

ヤマナシ

02 セグロセキレイ

ユズリハ

ミヤギノハギ

03 ムクドリ

11 ハマオモト

ミクリ

10 ピロウ

13 ナツツバキ

12 オオサカサナエ

ミクリ

11 ハマオモト

ミクリ

10 ピロウ

ミクリ

11 ハマオモト

ミクリ

10 ピロウ

ミクリ

11 ハマオモト

ミクリ

10 ピロウ

ミクリ

11 ハマオモト 浜万年青

見つける難易度 ★★



葉は広い線形で厚みと艶があり、オモトと似ていることから名が付きました。主に温暖な海岸の浜に咲くので、「ハマ」が付いています。太い茎の先に付く細長い白花はそり返っており、神事に用いられる白い繊維(ゆう)に似ています。古代朝廷では神聖視された樹で、上級貴族に許された牛車の屋根材として用いられていました。

10 ピロウ 浦葵 桜柳 常緑樹

見つける難易度 ★



アジア及び東アフリカ原産のヤシ科の植物です。葉先が細かく裂けて垂れ下がり、葉柄は1mほどもあります。葉柄の断面は三角形で縁にはトゲがあります。古代朝廷では神聖視された樹で、上級貴族に許された牛車の屋根材として用いられていました。

秋生城南園 生きものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

01 ジョウビタキ 鶲鶴・上鶴 冬鳥
見つける難易度 ★



オスの頭から後頭部にかけて灰白色なので、老人という意味の尉(じょう)という名が付き、体下面は橙色です。「ヒッピツ」という鳴き声が火打ち石の音に似ているので「火たき」です。メス・オス共に翼に白斑があるので、「もんつき」とも呼ばれています。

02 ウグイス 鶯 漂鳥
見つける難易度 ★★



繁みで「チャッチャッ」と鳴きながらせわしく動く淡緑褐色の鳥。ウグイス餅の鮮やかな緑色はウグイスではなくメジロの羽色。日本三鳴鳥といわれ、春が近付くと「ホーホケキロ」と美しくさえぎります。雌雄同色ですが、オスの方が少し大きく、体長は約16cm。

用語解説

漂鳥

秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥

冬鳥

秋から冬にかけて日本より北の地域から越冬のために渡ってくる野鳥

06 フジバカマ 藤袴
見つける難易度 ★



葉や茎の乾燥物は桜餅のような香りがするので平安時代には身に着けるなどして芳香を楽しみました。花は藤色で花弁の形が袴に似ているのが名の由来です。河畔に多く生育していましたが、今では京都府レッドデータブック2015で絶滅寸前種に分類されています。種子は食用とされています。秋の七草の一つです。

05 ハクショウ 白松 常緑樹
見つける難易度 ★



白い樹皮の特徴から名が付いたマツの仲間。原産地は中国。長命なことから長寿の象徴あるいは神聖な木とされています。葉は三葉で、刃がフォークのように3本ある仏具、三鉢杵(さんこしょ)にちなんで「三鉢のマツ」ともいわれています。種子は食用とされています。

04 ツルリンドウ 蔓竜胆
見つける難易度 ★



リンドウの仲間でツル性なのが名の由来です。山地の木陰に自生します。茎は紫色を帯び、ツル状で地表を這うか、他の植物などに絡まり成長します。花は淡紫色で5裂し鐘状に広がっています。果実は赤く、その中の種子は黒く翼があります。

12 セリ

11 ヒナノヒガサタケ

春の山

13 ナズナ

エビヅル



09 ツグミ 鶲 冬鳥
見つける難易度 ★



数歩歩いては背筋を伸ばして立ち止まる鳥。地面に降りてミミズや昆虫などを、樹上でムクノキやキヅタなどの実をつけます。白っぽい眉斑や翼の明るい茶色がよく目立ちます。今では禁止されているかすみ網で昔は多量に獲られていた時代もありました。

08 モズ 百舌 漂鳥
見つける難易度 ★



秋には「キーキーキチキチ」という特徴のある鳴き方をし、「モズの高鳴き」といわれています。「百舌」と書くように様々な鳥の鳴き声の真似をするのが得意です。枝先や有刺鉄線などに昆虫やトガゲなどの獲物を突き刺しておく「はやにえ」という習性があります。

13 ナズナ 芽
見つける難易度 ★



春の七草の一つで、4枚の白い花弁を持つ小さな花を多数付けます。花の下の方に付いている果実の形が三昧線のバチによく似ているので「シャミセングサ」、三昧線を弾く擬音語から「ベンベングサ」ともいわれています。

12 セリ 苗
見つける難易度 ★



田の畦や湿地に自生する多年草で、春の七草の一つ。夏に白色の小さい花を咲かせます。若葉に特有の香りがあり、万葉の時代から食用となっていました。京都はかつて、八条以南はセリの産地として有名で、城南宮南方にも芹川という地名が残っています。

11 ヒナノヒガサタケ
見つける難易度 ★★



コケの生えた地上などに群生する極めて小さなキノコで、かさの直径は5mmくらいです。かさは橙色で溝線があり、鐘形やまんじゅう形で、中央が濃い色です。ひだは黄白色ですが、柄はかさと同じ橙色で、粉のようなものが付いています。

10 シノブ(シダ) 忍
見つける難易度 ★



樹木の樹皮上に生育する着生型のシダ植物。シロの木の皮などを丸く固めたものにシノブを這わせ、ヒモで吊るせるようにしたものを「シノブ玉」と呼び、軒下などに吊り下げて鑑賞しました。和名の意味は「忍」であり、堪え忍ぶ性質が強いためといわれています。



南禅寺

南禅寺

南禅寺は、龜山法皇が1291(正応4)年に開創した臨済宗南禅寺派の大本山です。

龜山法皇は、父である後嵯峨天皇が造営した離宮の禅林寺殿で出家し、法皇となりました。『文應皇帝外紀』によれば、その後まもなく離宮に妖怪なことが起りましたが、無闇普門禪師大明國師が修行僧と共に離宮に留まり、坐禪・掃除・勤行と、禅堂そのままの生活を送られただけで妖怪なことは終息しました。龜山法皇はたたえて深く帰依し、禅林寺殿を禅寺に改め、無闇普門禪師を開山に迎えて南禅寺を開創しました。



法堂

三門

水路閣

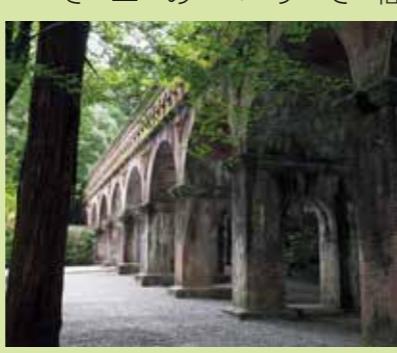


三門

南禅寺 拝観情報

【拝観時間】
午前8時40分～午後5時
(受付は午後4時40分まで)
※12月～2月は午後4時10分まで受付
※年末(12月28日～31日)は一般の拝観不可

【拝観料金】
境内は無料
(方丈庭園、三門、南禅院は別途必要)



水路閣

三門とは、仏道修行で悟りに至るために透過しなければならない三つの閑門を表す、空、無相、無作の三解脱門を略した呼称です。山門とも書き表され、寺院を代表する正門であり、禅宗七堂伽藍(山門、仏殿、法堂、僧堂、

水路閣は、琵琶湖の水を京都市内に向けて引く疏水事業の一環として施工された水路橋です。琵琶湖疏水は、東京へ都が移り衰退していく京都の復興を図るために計画され、1885(明治18)年に着工し、1890(明治23)年に竣工しました。赤煉瓦のアーチを



城南源氏物語 花の庭

神苑の五つのエリア

城南宮の神苑は、趣の異なる五つのエリアで構成されており、各時代の日本庭園の粹が集められています。

平安の庭

平安時代の貴族の邸宅の庭に倣つて造られました。寝殿造りを模した神楽殿や木々の影を映す池を越えると、曲水の宴が催される昔の庭が広がっています。



春の山

平安時代後期に城南宮の周囲に當まれた離宮の築山と伝えられ梅、三ツ葉ツツジと春の草木が次々と花を開きます。



室町の庭

室町時代の様式で造られた池泉回遊式庭園。池の中央には不老長寿を象徴する松が生える蓬莱島があります。三体の仏を象った三尊仏は仏の世界を表し、その奥に鳥居と社殿を望むことができます。



春
フタバアオイ
マダケ
ウメ
アヤメ
フジ

夏
キヨウ
ササユリ
クチナシ
ハス
クチナシ

秋
オミナエシ
シオン
フジバカマ
ワレモコウ
ヤブツバキ
等

冬
オミナエシ

城南離宮の庭
城南宮の一帯が最も華やかであった平安時代後期の様子を表す枯山水の庭園。石を敷いた苑路が鴨川、玉砂利が大池、緑の草が陸地、石組が殿舎を表しています。



平安時代中期に成立した「源氏物語」の中で、主人公光源氏は、四季の庭を備えた大邸宅「六条院」を造り、季節の移り変わりを愛で様々に遊びを行いました。白河上皇はこの「六条院」に触発されて、院政の拠点となる城南離宮の造営に取り組んだといわれ、大池を掘り、山を築くなどして大がかりな造園工事が行われました。これにちなみ城南離宮の中心に位置する城南宮の神苑には『源氏物語』に描かれた80種余りの草木が随所に植栽され、「源氏物語 花の庭」とも呼ばれています。

神苑 源氏物語 花の庭

平安時代中期に成立した「源氏物語」の中で、主人公光源氏は、四季の庭を備えた大邸宅「六条院」を造り、季節の移り変わりを愛で様々に遊びを行いました。白河上皇はこの「六条院」に触発されて、院政の拠点となる城南離宮の造営に取り組んだといわれ、大池を掘り、山を築くなどして大がかりな造園工事が行われました。これにちなみ城南離宮の中心に位置する城南宮の神苑には『源氏物語』に描かれた80種余りの草木が随所に植栽され、「源氏物語 花の庭」とも呼ばれています。



春 生きものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

用語解説
留鳥
餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥



07 キジバト 雄鳥 留鳥
見つける難易度 ★



06 シャガ 射干 胡蝶花
見つける難易度 ★



05 ニホンリス (ホンドリス) 栗鼠
見つける難易度 ★★★



04 アカシジミ 赤蝶蝶
見つける難易度 ★★★



03 タゴガエル 田子蛙
見つける難易度 ★★



森林内の渓流にすむカエルで、「ゴゴッ」というぐもった鳴き方をします。地表の下にある水流の中に卵を産み付けるのが特徴的です。オタマジャクシは卵黄の栄養だけで2cmほどに成長した後、カエルの姿になります。タゴは両生類研究者の田子勝弥氏に由来。

羽の色や模様がキジに似ているのでキジバトという名です。様々な草花の種子を食べ、そ囊(のう)で蛋白と脂肪に富むビジョンミルクを分泌し、ヒナに与えるので春以外の季節でも繁殖可能です。「デデボオボオボオ…」とさえずる声が境内によく響きます。



08 コゲラ 小啄木鳥 留鳥
見つける難易度 ★

キツツキは「虫けらつつき」に由来し、その仲間は語尾にケラと付くようになったともいわれます。日本最小のキツツキなのでコゲラです。木の幹を回りながら突き、音の変化で虫の居場所が分かります。先がネバネバした長い舌を木の穴に差し込み虫を捕られます。



09 シャクナゲ 石楠花・石南花
見つける難易度 ★

ツツジの仲間の低木です。漢字の石南花は中国産の別の植物ですが、これがシャクナゲになったともいわれています。山地や渓流のほとりなど、やや湿度が高い地を好みます。園芸種では赤やピンク、白など半球状の大きな花もあります。



10 キセキレイ 黄鶴鶯 留鳥
見つける難易度 ★

胸や腹が黄色いセキレイです。眉斑と顎(あご)の線は白く、上面は灰色です。常に尾を上下に振りながら歩き、水辺で小さな昆虫などを捕られます。「チチンチチン」と鳴きながら、波形に飛びます。オスのさえずりは、「ツイツイチヨチヨチヨ」などとよく響きます。



11 アサヒナカワトンボ 朝比奈川蜻蛉
見つける難易度 ★



12 イヌガシ 犬懸 常緑樹
見つける難易度 ★★



13 イノシシ 猪
見つける難易度 ★★★



滅多に出会いませんが、足跡、食痕のフィールドサイン(痕跡)が見られます。出会ったときは危険なこともあります。注意が必要です。犬と同じくらい鼻が非常に敏感。基本的に昼行性で、山林に生えている植物の根や地下茎、ドングリ、タケノコ、キノコなどを食べ、昆虫類、ミミズ、サワガニ、ヘビなどを食べます。



夏生きものマップ

夏

生きもの
位置図



※見つける難易度 ★: 見つけやすい, ★★: 少し見つけにくい, ★★★: 見つけにくい

用語解説

留鳥

餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥

漂鳥

秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥

夏鳥

春に日本より南の地域から繁殖のために渡ってくる野鳥



07 ノカンゾウ 野萱草

見つける難易度 ★★

ノカンゾウはススキノ科(又はワスレグサ科)で、漢方薬の「カンゾウ(甘草)」はマメ科で別種です。夏に高さ60cmほどの花茎を立て、橙赤色の花を数個付けます。萱草は漢名で、野原に生育するところから名が付きました。萱(かや)は屋根をふく材料の総称で、細長い葉を持つ植物に付けられます。



06 ウバタマムシ 姥玉虫

見つける難易度 ★★

マツ林にすむ大型のタマムシです。体は濃褐色の金属光沢があり、黄灰色の粉を帯び、上翅(前翅)には縦の筋があります。幼虫はマツの弱った木や枯れ木の材を食べて育ち、成虫になるのに3年以上かかります。成虫は夏に多いですが、一部は越冬します。



05 オオセンチコガネ 大雪隠

見つける難易度 ★★

動物の糞に集まるコガネムシの仲間。メスは地中に糞を埋め込んで産卵し、幼虫は糞を食べて育ちます。上翅(前翅)の色には地域によってバリエーションがあり、南禅寺近辺では光沢のある金緑褐色です。センチは便所を指す語の「雪隠(せっこん)」が訛ったものです。



04 ウワミズザクラ 上溝桜 落葉樹

見つける難易度 ★★

古代の亀甲(きっこう)占いで鹿の骨を焼く材として使われ、その材に溝を彫ったことから上溝(うわみぞ)が「うわみず」に転化したなどの説があります。小さな白い花を総状のプランのように付けます。果実は5mmほどの球形で、夏に熟した実は食用にされたり果実酒にされたりします。



01 ツミ 雀鷹・雀鶲 留鳥 漂鳥

見つける難易度 ★★★

オスはヒヨドリ(体長27cmほど)くらいの大きさのタカの一種です。オスとメスの体色が異なり、平安時代からメスは「つみ」、オスは「えっさい」と呼ばれていました。京都府レッドデータブック2015で絶滅危惧種に分類されています。



02 センダイムシクイ 千代虫喰 仙台虫喰 夏鳥

見つける難易度 ★



03 キビタキ 黄鸝 夏鳥

見つける難易度 ★



08 クチベニマイマイ 口紅蝸牛

見つける難易度 ★

近畿地方では最も一般的なカタツムリです。殻は淡い黄白色で光沢があり、黒褐色の筋がありますが、個体によって筋がない場合もあります。殻口が紅色を帯びるのが名前の由来です。殻の直径は26~37mmで、境内のサグラやモミジの幹など樹上によく見られます。



09 クロコノマチョウ 黒木間蝶

見つける難易度 ★★

翅の端が角張り突起状になっており、裏面は枯葉によく似ています。雑木林の間にいて黒っぽいのが名の由来です。夕方になると林内を活発に飛び回り、クヌギなどの樹液や果実に集まっています。成虫で越冬します。幼虫の食草は、ススキやジュズダメなどです。



10 ノウタケ 脳茸

見つける難易度 ★

腐葉土の多い林内の地上に発生するキノコです。ホコリタケの仲間で、成熟したものは無数のしわが出て、脳のような外観になるので脳茸と名付けられました。頭部と茎部に分かれています。幼菌は黄褐色で、成熟すると淡黄色や茶褐色に変化します。



11 ミスジチョウ 三筋蝶・三条蝶

見つける難易度 ★

濃茶色に3本の白い帯がある翅の紋様が名の由来で、林縁や水際などで見られます。ゆるやかに滑空するように飛び、翅を開いて止まります。初夏に成虫が観察でき、幼虫で越冬します。幼虫の食草はイタヤカエデやヤマモミジなどです。



12 オオルリ 大璫 夏鳥

見つける難易度 ★

瑠璃(るり)色(鮮やかな青色)のコルリより大きな鳥という名の由来です。境内に美しいさえずりが春から夏の間よく響き渡ります。日本の三鳴鳥の一つで、背のブルーと腹の白のコントラストが際立って見えます。空中で虫を捕らえ、木の実をついぱむることができます。



13 エゴノキ 萬葉の木 落葉樹

見つける難易度 ★★

果実を口に入れるとえぐいことから名が付きました。樹皮は赤褐色で、細かく、小枝の先に房状に白い花を下向きに多数付けます。果実は有毒なエゴサボニンを多く含み、ヤマガラは脚を巧みに使い、中の種子だけを取り出してついぱむることができます。

秋の生きものマップ

秋

冬

用語解説

漂鳥

秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥

冬鳥

秋から冬にかけて日本より北の地域から越冬のために渡ってくる野鳥

07 ニシキギ 錦木 落葉樹



見つける難易度 ★

06 アトリ 花鶴 冬鳥



見つける難易度 ★

05 ホトギス 杜鵑草



見つける難易度 ★

04 ツワブキ 石蕗, 鳞蕗



見つける難易度 ★

01 カケス 懸巣 漂鳥



見つける難易度 ★★

名の由来は大変に美しくなる紅葉を錦に例えたことです。枝は直線的にコルク質の翼ができます。この翼を刃物になぞらえ「カミソリノキ」という別名があります。鮮やかな紅葉に先がけて果実が熟して割れ、8mmほどの赤い種子を付けます。

08 ソシンロウバイ 素心蝶梅 落葉樹



見つける難易度 ★

花弁が蝶(ろう)細工のように美しいのが蝶梅(ろうばい)の由来ですが、ウメ(バラ科)とは別のロウバイ科の植物です。ロウバイのように花の中心に紫褐色の斑がない、花の芯まで黄色いので「素心」です。葉の前に花径2cmほどの花がやや下向きに付きます。スイセンに似た香りが漂います。

09 ルリビタキ 瑞璃鶲 漂鳥



見つける難易度 ★

美しい瑞璃色のヒタキ科の鳥です。オスの上面は青色でメスは緑褐色です。脇には黄色の斑紋があり、境内ではメスもオスも縄張りを持っています。昆蟲類や果実などを食べ、繁殖期になると、「キヨロッキヨロッ、キヨロリ・」とさえずります。

10 アリドオシ 蟻通し 常緑樹



見つける難易度 ★

葉の付け根に長さ2cmほどの鋭いトゲがあり、蟻をも刺し通すというのが名の由来です。秋に熟す赤い実は6~7mmほどで小さく、翌春まで枝に残ります。薄暗い林の中にまとまって生えています。樹高は1mに満たないものが多い低木で、別名は「一両」です。

11 タラヨウ 多羅葉 常緑樹



見つける難易度 ★

12 クロジ 黒鶲 漂鳥



見つける難易度 ★★

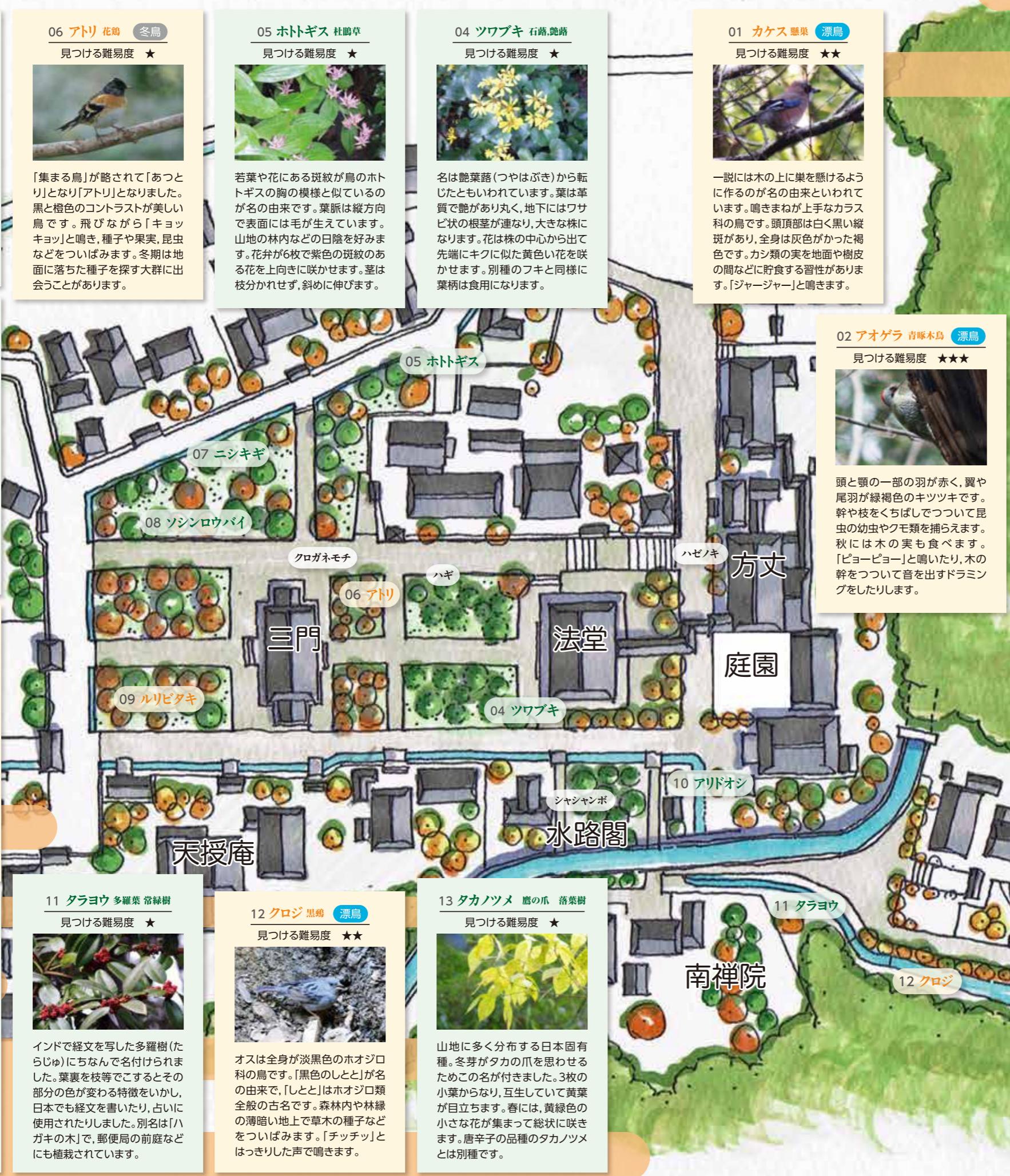
インドで経文を書いた多羅樹(たらじゆ)にちなんで名付けられました。葉裏を枝等でこするとその部分の色が変わる特徴をいかし、日本でも経文を書いたり、占いに使用されたりしました。別名は「ハガキの木」で、郵便局の前庭などにも植栽されています。

13 タカノツメ 鷹の爪 落葉樹



見つける難易度 ★

オスは全身が淡黒色のホオジロ科の鳥です。「黒色のしと」とが名の由来で、「しと」はホオジロ類全般の古名です。森林内や林縁の薄暗い地上で草木の種子などをついぱみます。「チッツ」とはっきりした声で鳴きます。唐辛子の品種のタカノツメとは別種です。



※見つける難易度 ★: 見つけやすい, ★★: 少し見つけにくい, ★★★: 見つけにくい

生きものを支えるボーダレスな自然環境

南禅寺から若王子一帯の森はかつて私が子どもの頃、虫採り少年達にとつてもっと重要な森の一つでした。子どもたちの足でさほど遠くない南禅寺一帯の自然の魅力は何事にも代え難いもので、夏休みには朝も暗いうちからお目当てのクワガタを探るために秘密のポイントを目指したものでした。残念ながら今はあります。一帯を流れる小川にはゲンジボタルが飛び、インクワイン上の舟溜まりは、琵琶湖疏水が運んでくる魚や水生昆虫を探る絶好のポイントでした。行く度に出会う多くの生きものにドキドキしながら、また彼らがどのように暮らししているのかとても興味がありましたが当時の私には判断の術もありませんでした。

今回の冊子をまとめにあたり、あらためて同じ場所を歩いてみるとかつてと変わらぬ森の豊かさに驚き、多くの新しい発見をしました。昔も今も変わらない南禅寺の生物多様性の特徴とその魅力を考えたいと思います。

自然環境の骨格・東山三十六峰

京都北山から比叡山を経て、東山の南に位置する南禅寺とその裏山の自然樹林は、途切れずその先の醍醐を経てさらに南の奈良の春日山へと続きます。東奥の院から尾根道を辿り琵琶湖へと連続します。東禅寺一帯の自然を身体に例えると、東山三十六峰の連続する大きな自然（京都北山～南禅寺）は自然環境の骨格となり、中ぐらつの自然（南禅寺境内）や小さな自然（南禅寺一帯の庭園など）の存在は、体を健方に保全されています。

境内周辺は花木類、紅葉類、松など人が植栽したものであり、景観維持や安全保持などを目的として日常的に維持管理が行われています。



三門からみた境内と背後の森

か？

大石 善隆 氏
福井県立大学 講師

③南禅寺



②天授庵



①南禅院

世界に誇る日本の美「苔庭」

コケにできないコケ

京都の社寺仏閣・庭園を廻るうえで忘れてはならないもの…「コケ」。もちろん、あの小さくて目立たず、花も咲かない地味な緑色の植物のことです。いつもは日陰者のコケも、庭園ではうつて変わって主役級の存在感をみせています。コケの繊細な緑がわび・さびの風情を醸し出し、さうに小さな凹凸があるコケのマットが雑音を吸収し、静寂な空間さえもつくりだしているのです。

日本庭園はコケのオアシス

学術的にみても、庭園の「コケは大変興味深い研究対象です。というのも、庭園には非常に多くのコケが生育しており、一つの庭園から100種以上のコケがみられることが少なくないためです。京都府全体でみられる「コケはだいたい600種程度である」とみると、いかに庭園に「コケが多いか分かると思います。なぜ庭園でこれほど多くのコケがみられるのでしょうか？」この理由として、「自然の風景をミニチュアで表現するデザイン（縮景）が庭園で使われていることが挙げられます。つまり、庭園「デザイン」によって、さまざまな環境がつくられ、多様なコケの生育を可能にしているのです。コケは日本庭園の景観に彩りを添え、また、日本庭園の景觀がコケの多様性を高めている…日本庭園とコケは、相思相愛という言葉がぴったりのようす。

南禅寺など、京都のコケ庭で幅を利かせているコケたち

コバノチョウチンゴケ
小葉提灯苔ホソバオキナゴケ
細葉翁苔ヒノキゴケ
檜苔
ウマスギゴケ
馬杉苔

まだ他の植物が芽吹く前の晩冬に美しいエメラルドグリーンの新芽をだします。その輝きは遠くからでもわかるほど。一足早く、春の到来を教えてくれます。

白みがかった色にちなんで名づけられた「シラガゴケ類」の1種。丸いクッションのような形をしていることが多く、「饅頭コケ」と呼ばれることも。

動物の尻尾のようにフワフワしたコケ、別名「イタチノシッポ」。繊細な緑色と毛皮のような手触りから人気が高いコケのひとつ。

コケ庭でもっともよくみかける種。空に向かってピンと伸びた姿が凜々しく、その雰囲気はまさに「コケ庭の雄」。

庭園は生きものの聖域

南禅寺には多くの別院・塔頭があります。それぞれに大小の庭園が存在し、古くより変わらず人の手が入れられ安定した環境を維持しています。先人達が自らの力と工夫を基に造り上げてきた庭園には、自然に逆らう手法や無駄は一切ありません。「釈尊の悟りとその法門が以後代々の祖師方が並々ならぬ苦修によって、一つの器の水をそつくりそのまま次の器に移すように伝えられてきた」と言われるように、ここ南禅寺は自然環境的にも昔と変わることの無い豊かさを現在も伝えています。この永年に守り伝えられてきた環境は、生きものにとってまさに聖域といつても過言ではありません。

河合 剛生 氏
環境カウンセラー

山際の渓流と自然樹林



渓流(左)と疏水(右/水路閣)



境内を流れる変化に富む細流

東山の谷から生まれる細流と琵琶湖疏水の異なる二つの水系は、南禅寺境内とその一帯に血管の様に隅々まで流れ、水系を生活の場とする多くの生きものの生活空間と移動空間となっています。またそこに見ることのできる変化に富むせせらぎや水路、石積み等も多様な生きものの生息場所となっています。

南禅寺から若王子一帯の森はかつて私が子どもの頃、虫採り少年達にとつてもっと重要な森の一つでした。

子どもの足でさほど遠くない南禅寺一帯の自然の魅力は何事にも代え難いもので、夏休みには朝も暗いうちからお目当てのクワガタを探るために秘密のポイントを目標したものです。残念ながら今はあります。一帯を流れる小川にはゲンジボタルが飛び、インクワイン上の舟溜まりは、琵琶湖疏水が運んでくる魚や水生昆虫を探る絶好のポイントでした。行く度に出会う多くの生きものにドキドキしながら、また彼らがどのように暮らししているのかとても興味がありましたが当時の私には判断の術もありませんでした。

今回の冊子をまとめにあたり、あらためて同じ場所を歩いてみるとかつてと変わらぬ森の豊かさに驚き、多くの新しい発見をしました。昔も今も変わらない南禅寺の生物多様性の特徴とその魅力を考えたいと思います。

生きものを支えるボーダレスな自然環境

保つための臓器と言えます。これらの大規模なさまざまな自然環境があることにより、生きものの生活空間が保全されています。

南禅寺周辺の自然は、特徴ある二つの連続する樹林環境からなっています。



山際の渓流と自然樹林

渓流(左)と疏水(右/水路閣)

境内を流れる変化に富む細流

Biodiversity Snaps



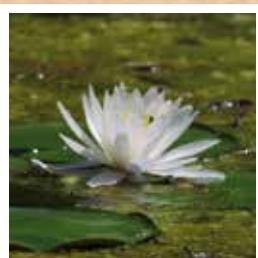
春の城南宮
しだれ梅とヒヨドリ



春の城南宮
ムラサキシジミ



春の城南宮
マルバシャリンバイ



夏の城南宮
スイレン



夏の城南宮
ツマグロヒョウモン



夏の城南宮
ミクリ



秋冬の城南宮
メジロ



秋冬の城南宮
カジノキ



春の南禅寺
ヤマザクラ



春の南禅寺
イカリモンガ



夏の南禅寺
ヒグラシ



夏の南禅寺
サルスベリ



夏の南禅寺
ハンミョウ



秋冬の南禅寺
シロハラ

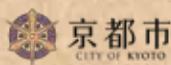


秋冬の南禅寺
ヤブコウジ

制作協力(敬称略、五十音順)

大石 善隆(福井県立大学講師) 河合 翠生(環境カウンセラー) 公益財団法人京都市都市緑化協会 城南宮
西台 律子(日本鳥学会員) 臨済宗大本山南禅寺

発行：京都市環境政策局環境企画部環境管理課 平成30年3月発行 京都市印刷物第293221号
この印刷物は再生紙を使用しています。



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

